

検査のパレット



前回ユニバーサルワクチンについてお話ししました。

今回は国内のユニバーサルワクチン導入の動向についてお話しします。

来年度 B 型肝炎の予防接種をユニバーサルワクチンとして乳幼児導入される動きがあります。

そもそも B 型肝炎て？ B 型肝炎ウイルス（HBV）は**全世界で約 3.5 億人**、日本では**約 130～150 万人（およそ 100 人に 1 人）**感染していると推定されています。かなりの感染率です。

B 型肝炎ウイルスが肝臓に感染し、炎症を起こします。

炎症が持続すると慢性肝炎から肝硬変、さらに肝臓へと進行する可能性があ

ります。**長い時間をかけて苦しめられる病気です!!**

感染ルート

血液感染

- ① 針刺し（医療関係者）
- ② 母子感染（HBV キャリアのお母さん）

自分が感染していることを知らず、気付かないうち感染が拡大しているケースもみられ、年間で**約 1 万人の新規感染者**がいます!!

接触感染（最近増加している）

傷などから体液や血液が侵入

① 集団感染

- ・ 保育園で園児、保育士間
- ・ 家族間 など

② HBV 感染したパートナーとの性交渉（問題視されています。）

実は・・・HBVは予防接種することで感染を防げる病気です。

青と水色の国はユニバーサル
ワクチン導入国



180 ヶ国以上の国 (90%) がユニバーサルワクチンとして導入しています。導入国では B 型肝炎の**感染率が減少**しています。またこれだけの国が導入しているので最も**安全性のあるワクチン**ともいえます。しかし日本はまだセレクトティブワクチンです。

HB ワクチンは 4～6 か月間に 3 回接種します。

乳児期に 3 回接種した場合、ほぼすべての人が B 型肝炎に対する免疫を獲得できることがわかっています。また HB ワクチンの効果は少なくとも 15 年間持続することが確認されています。そして 20 代までに接種を行った場合も高い効果があります。ただし HB ワクチンの効果は年齢と共に低下します。例えば 40 歳を過ぎてからのワクチン接種により免疫を獲得できるのは約 80% です。ですから 20 代まで特に乳幼児期での接種が重要となります。

2 回にわけてユニバーサルワクチンについてお話ししました。自治体負担で全部の予防接種がユニバーサル化！とはいきませんが、副作用なども考慮し国民の理解とユニバーサルワクチンの今後の展開に期待したいです。